



平成31年3月8日

報道機関 各位

熊本大学
鹿児島大学

「熊本大学エイズ学研究センター」と「鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター」を統合・再編し、新たな共同研究センター「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」を設置します。

熊本大学と鹿児島大学は、熊本大学の「エイズ学研究センター」と鹿児島大学の「難治ウイルス病態制御研究センター」を統合・再編し、両大学が合同で新たに「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」を平成31年度に設置することとし、この度、新センターの運営の基本方針等を定めた協定書を締結することといたしました。

つきましては、下記のとおり協定書調印式を開催しますので、当日の取材方よろしくご願ひいたします。

記

(1) 日 時：平成31年3月18日(月)10時00分～11時00分

(2) 会 場：熊本大学本部棟 1階大会議室(別紙参照)
(熊本市中央区黒髪 2-39-1)

(3) 出席者：

大 学	役 職	氏 名
熊本大学	学 長	原田 信志
	研究・社会連携担当理事・副学長	松本 泰道
	エイズ学研究センター長	松下 修三
	エイズ学研究センター 教授	鈴 伸也
鹿児島大学	学 長	前田 芳實
	研究担当理事・副学長	高松 英夫
	国際企画推進担当副学長 難治ウイルス病態制御研究センター 教授	馬場 昌範
	難治ウイルス病態制御研究センター長	池田 正徳

■新共同研究センター設置の社会的背景

HIV-1(ヒト免疫不全ウイルス1型)、HTLV-1(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)、HBV(B型肝炎ウイルス)は、一生涯感染が続く排除困難なウイルスであり、これらの感染症の根絶が世界的に課題となっており、感染者数及び医療費は看過できない状況にあります(下表)。

HIV-1は先進国中、日本で例外的に新規感染者が増加、ワクチンは開発されておらず、潜伏感染という新たな臨床上の課題も出現しています。HTLV-1は九州・沖縄等の南九州に多く、先進国中、唯一の浸淫国であり、完治療法は確立されていません。HBVは抗癌剤投薬などによりウイルスが再活性化する症例が報告されるなど、完全に排除されていない事実も明らかになっています。また、HIV-1及びHTLV-1は主にレトロウイルス領域、HBVは肝炎領域で研究が進んできた経緯から領域の壁があり、世界的にも交流が少ないのが現状です。

感染者数(推定値)				生涯医療費(患者1人)	
HIV-1	世界	3,700万人	日本	2.6万人	約1億円
HTLV-1		1,000万人以上		80万人	約600万~1,000万円
HBV		3.5億~20億人		110万~125万人	約40万円/年

■新共同研究センターの設置目的

「ヒトレトロウイルス学共同研究センター」は、複数の大学の強みを統合することで限られた資源を有効に活用し、特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進するため、熊本大学エイズ学研究センター及び鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターを統合・再編することで、両大学の組織再編・部局運営の効率化を促進するものです。上述のウイルス感染症を跨いだ世界的に例がない研究を掲げる組織を大学の壁を越えて創設し、研究部門の統合・再編により、人的・物的資源を戦略的に再配置し、両センターの共通目標である難治性ウイルス感染症の克服を目指すものです。

さらに、両センターの融合をモデルケースとして、地方の国立大学が培ってきた強みを失うことなく、これらからの少子化・経済情勢に対応できる、地方国立大学の新たな連携の在り方を構築することが期待されます。

【以下参考】

○熊本大学エイズ学研究センターの概要

熊本大学エイズ学研究センターは、日本の大学では唯一のエイズ専門の研究施設として平成9年に設立されました。以来、大学院生命科学研究部のエイズ研究分野や、東京の国立国際医療研究センター、国立感染症研究所と連携をとりながら、エイズ撲滅を目指して最先端の研究を行っています。また、多数の海外の研究機関とエイズに関する国際共同研究を進めています。特に HIV-1 感染症での免疫を中心とした研究と新薬の開発に焦点を絞り、新たな治療法や予防法の開発を目指して、エイズとの戦いを続けています。

○鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターの概要

鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターは、成人 T 細胞白血病ウイルス (HTLV-1) を中心とし、慢性に経過するウイルス感染症の病態の解明と治療法の研究を目的として、平成 5 年度に医学部附属施設として設置されました。その後、大学院医歯学総合研究科附属施設への改組を経て、平成 29 年度からは、全学施設へと移行し、現在は 4 研究分野体制で、HTLV-1 以外にも肝炎ウイルス (HCV、HBV) や HIV-1 などの慢性化する難治性のウイルス疾患を撲滅するミッションに取り組んでいます。特に、HTLV-1 の感染が原因で起こる成人 T 細胞白血病 (ATL) や鹿児島大学で発見・命名された HTLV-1 関連脊髄症 (HAM/TSP) 等の患者様から得られた貴重な臨床検体のリソースを活用し、国内外の研究施設との共同研究を進め、新規治療法の開発を目指しています。

【お問い合わせ先】

★熊本大学

教育研究支援部生命科学先端研究事務課

担当: 西川 毅

電話: 096-373-5958

★鹿児島大学

研究推進部研究協力課

担当: 小澤 結花

電話: 099-285-7026

(別紙)

熊本大学 黒髪南地区



※入口から入り、「南地区門衛所」にて手続き後、入構してください。